

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	麦の家は、1週間に1度の家族訪問を契約時にあげ、家族との関係を大切にしている。更に入居者と家族の関係を中心に家族・地域の人々が連携した認知症ケアを目指している。しかしながら、ここ数年、認知症の疾患を持ち、更に家族を持たない、単身世帯の方の入居が増したことに加え、コロナ禍の中で、当初から面会は止めずに進めたが家族の訪問にばらつきが見られ、必ずしも週1回行われていないケースが増えている。	職員の入れ替わりもある中で、麦の家の理念が今後も、全職員に浸透し、家族との関係を重視し継続していくこと。全ての入居者家族の事情も考慮しながら、入居者と家族の関係を途切れることなく、関係を深められる職員の介入を目標とする。	・担当職員を中心に、グループホームの日常の個々の様子や写真などを家族に手紙を送る、電話をするなど細かな連絡で担当との関係を構築する。 ・家族が訪問しやすい環境や関わりなど、受け入れ側の姿勢を考える機会を職員と持ち、個別に18名の家族と話す機会を定期的に作る等の取組でコロナ禍の中においても家族との関係を再度深める機会を持つ。	24ヶ月
2	23 24	ホスピス棟ができ現在、ご逝去される入居者のほぼ100%の方の看取りを行っている中で、看取り時の身体的なケアにおいては個々の職員が観察力と共に成長できているが、個別の関わり(コミュニケーション)を深め、ケアの方向性を決定するアセスメント能力を高めていくことが課題である。	毎日10分間の入居者との関わりの中で、職員のコミュニケーション能力を高めていく事を目標とする。	職員が、入居者と傾聴する時間をプログラムに取り入れ、傾聴記録を職員と個々にスーパービジョンする機会を持つ。引き続き職員を3グループに編成し、各グループでの「個別ケア事例」「集団ケア事例」を通じ学びを深め、職員個々に質が高められるよう支援する取り組みをする	24ヶ月
3	35	各地で想定外の災害が起こる中で、実際に災害が起こった時に、中川村との関係や近隣地域の皆さんと連携し、対応していけるよう実際の災害時の対応を想定した継続計画を作成することが課題。	実際に避難連携施設(越百園)への避難訓練を通じて、災害時に職員が対応できることを目標に持ち、職員間で(現場リーダーを中心に)、実際に災害があった場合を想定し、麦の家にあった業務継続計画の作成に取り組むことを目標とする。	緊急避難時に於いて、避難場所へ入居者を誘導するため、道路拡張を地域の要望として挙げていただき実現する予定。全職員が、避難場所への経路の確認をし、防災計画のもと、避難訓練を年数回実施する。また、行政や近隣地域と打ち合わせを行い、現状に即した業務継続計画を作成することにより、それぞれの役割分担を明確にし、災害時等に業務継続計画に基づく対応ができる体制の構築に取り組む。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。